

私は、この東大・企業大学訪問では様々なことを学ぶことができた。以下がその学んだ点をまとめたものである。

1日目、東京に到着してからすぐにディレクトフォースが行われた。最初に笹川平和財団の理事長田中伸男さんから私たちに向けての講演があった。田中さんは以前 IEA(国際エネルギー機関)の事務局長をしておられ、その仕事の内容を通して世界での仕事上の生き方を学ばせてもらった。現在指摘されている食糧不足に対する批評はかなり前からされているものであることを知り、世の中の問題というのは誰かがどうせ解決する、という意識を持ってしまうのではなく、注意を喚起されている人類全体が、個人個人なんらかの対策を練らなければいけない、と考えを改めさせられた。また、講演の中で私をはじめとした同級生が質問を行なったが、簡単なことでも、ゆっくりとわかりやすく説明していただき、聴衆に対する立場がいかなるものか、ということを理解できた。この点は将来的に自分がプレゼンを行なう時に心がけなければならないことである、と感ずることができた。

講演の後では、世界各地でご活躍なさっている方々との、グループで意見交換(ディスカッションというべきでしょうか)を行った。15分の間隔で4人の方々と話をすることができた。

その中で、全員と共通していたところは、運輸業に携わっている人なら国民のニーズ、奨学金に携わっている人なら奨学金を受ける人、など、サービスを行なう対象の立場を考慮して仕事を行っている、という点だ。もちろん、この点はその方々の仕事における原動力となっている。

わたしは中学校に通っていたときにも職業についての体験や、研究を行ったことがある。そのときにも、今回と同様サービスを行なう対象の気持ちを踏まえること、客は神と同じ存在だと思え、という心構えにおいて、つながるところがある。この点を深く考えられるところが日本の良いところなのだろう。

ディレクトフォースの後には、各グループそれぞれ、事前にアポイントメントをとった企業や大学の方への訪問を行った。

アポイントメントは、夏休みに入るだいぶ前から練り、とても重いものであった。私のグループは東京医科歯科大学の細胞治療センターにおける、森尾友宏教授を訪問できたのだが、OBの先輩や、わたしが授業中で対応できなかった際に代わりに話していただいた先生のおかげで、かなり、素晴らしい体験ができたのだと、今となって、かなり心に思うものがある。口頭ではありませんが、誠にありがとうございました。

森尾教授へのインタビューでは事前に秘書さんの方へ送ったメールに添付した質問事項を中心に話を行った。具体的な質問は割愛させていただくが、私をはじめ、班のメンバーのほとんどが質問を積極的に発し、森尾教授はその質問一つ一つにとっても丁寧に対応してくださった。私は森尾教授の隣に座って話をしていたのだが、自己紹介を行った時点から対談が終わるまで、かなりの量のメモ(班員の発言に対するもの)を教授が書いているのを見て、「相手をよく観察する」ことで、何事にも強い立場、モチベーションでいられるのだな、落ち着いていられるのだな、と感ずることができた。

私は質問する際にできるだけ目を合わせよう、顔をあげよう、と意識していたが、森尾教授は私以上に、常に発言する際に私たちの顔を見て話しており、対談を数多の数こなしていくうちにそのようになれるのかな、と思うとともに、そうならなければいけないと心に決める課題を作り上げることができた。

対談の後には、東京医科歯科大学の研究室や実験を行う部屋を見させていただいた。国立大学には資金が多く入るのだろうか、設備が全て綺麗で、空気に触れずに実験が行えるなど、かなり正確な研究が行える環境が整っていた。森尾教授との話の中で電子機器を扱う企業との繋がりがある、ということも伺った。やはり、様々な分野のプロフェッショナルと関わりを多く持つことが、将来の自分を高めることにもつながってくるのだろう。人間関係というものは、ときに強力な武器となる。一匹狼のように無駄にかっこつけてはいけないのである。

大学への訪問の後には東京大学をはじめとした、東京の大学に通っている(もしくは通っていた)先輩方との対談が行われた。先輩方は、それぞれパワーポイント等を用いて、大学の環境や、このようなことを行うことができ

る！、などといった、私たちが進むであろう将来の情報について教えてくださいました。勉強にかなり熱心になっている、という先輩以外にも、文系から理系へと変わったり、世界一周旅行を行った、などのかなりユニークな先輩もいた。誰かに何かを勧める際には、聴衆が楽しめるような、なんらかのおもしろみを話の中に入れてなければならないのだな、と感ずることができた。また、おもしろい話はかなりの期間頭の中に残る。この点は、自分を押し売るときに思い出せば、より強靱な講話を作り上げることができる。

やはり、頭が回る人は相手の思いを感じられ、話をおもしろくできるのだろう。

自分の夢に向けて、周りと違い、やらなければならないことの取捨選択を行っているひとがかなりいた。何でもかんでもむやみやたらとやるのではなく、自分の将来と向き合いながら生活しているのである。何事も情報が多いものが勝つのだろう。

自己管理、ということについての言及もあった。実家から遠い大学に入れば、ほとんどの人が自炊の生活をする。楽しいこともあるが、単位などのつらいこともある。自分で自分を律せる人でなければ大学で学ぶ資格はないのだ。人生はずっと試練の連続であるのだな、と考えることができた。

2日目は東京大学のオープンキャンパスへの参加が1日を占めた。東京大学に行ってみて、まず思ったこととして、多くの学部が同じ敷地にあるだけあり、かなり敷地が広がった、というものがある。敷地の中にコンビニやレストランがあるなど、学生にとってかなり素晴らしい環境が整っている。研究室もたくさん建設されていた。日本の頂点という貫禄はやはりとてつもないものであった。

しかし、私たちと同様、オープンキャンパスに参加している同年代と思われる人をたくさん見て、かなりの違い、というものは感じられなかった。私たちは心のどこかで都会の人びととのビハインドを作ってしまったのだと思う。受験の際に自分を信じれるかどうか、という勝負する点を把握することができた。

私たちをはじめ、地方生に対する、東大生の方からのイベントもあった。都心には都心なりの良さがあるが、質問をすぐに聞ける等の、地方には地方なりの良さもあった。やはり、いかに妥協せずに自分の夢にこだわれるか、自分に自信を持てるか。弱点をなくせるか、というところで差がつくのだという。自分に勝たなければならない、と肝に銘ずることができた。

帰りの新幹線内では今後の生活をずっと考えた。自分に勝つためにはどうすれば良いのだろうか。心をいかに鍛えるか。やはり、私たちの未来はかなり広い。ここで挫折してはいけぬ。如何にこだわりぬけるか。具体的なイベントの内容ではなく、運営する、行なう側の心構えや姿勢を通して、私たちの将来について考慮させられた2日間。これからは同年代の方々のなかで、こだわって、こだわりぬいて、勝っていけるよう、心身ともに鍛え、精進していきたい。